

### 34) 麴町区内幸町における藤島太麻夫新築治療所の詳細

Studies on the Newly Built Dental Office of Dr. Tamao Fujishima in Uchisaiwaicho, Kojimachi-ku, Tokyo

東京歯科大学 ○山岸東太郎, 森山徳長, 長谷川正康, 石川達也

Totaro Yamagishi, Norinaga Moriyama, Masayasu Hasegawa and Tatsuya Ishikawa,  
*Tokyo Dental College*

歯科医学叢談第3巻第4号(明治31年8月発行)に藤島太麻夫氏が麴町区内幸町5番地に開業したとの記事と、巻末に藤島太麻夫が同地に転居したとのお知らせが掲載されている。これについて在来、現存しないものとされていたが、明治村博物館との調査により、当時の藤島歯科医院が栃木県に移築されていることが分かり、博物館の許可を得てここにその経緯と詳細を発表する。

栃木県足利市鹿島町1115の明治機械(株)足利事業所敷地内に、明治機械足利事務所があった。これについて従来の説では、都新聞(現在の東京新聞)社屋(東京・内幸町)であったものを足利に移築したものとされていたが、調査では明治31年東京内幸町に、歯科医院(藤島歯科医院)として建設されたものであると判明した。

昭和6年頃、隣接地の都新聞社が社屋拡張のため、藤島歯科医院と敷地を取得、昭和9年、同社社長福田英助経営の足利市・両野染色合資会社の工場敷地内に移築した。昭和18年、明治機械(株)が同敷地および建物を取得した。

大正2年2月11日付東京日々新聞の写真により、藤島歯科医院の建物を確認した。一階正面玄関左側は移築後に増築したことが判明した。また

切妻部分は、増築であることが明らかであるが、昭和4年8月の都新聞社報の写真により、同増築部分は、東京時代に存在していたことが分かった。

設計者は不明であるが、塔屋の形が渡辺讓設計の前田侯爵邸に似ているなど、ドイツ風の塔屋の形状から考え明治30年代に設計できる人物に限られる。隣の都新聞社屋(明治23年竣工)は渡辺讓の設計である。

昭和57年日本建築学会が行った近代建築調査で、貴重な建物二千棟の一つに挙げられ、同学会は所有者の明治機械に長く保存を希望する報告書を提出した。その後足利市教育委員会は、所有者・明治機械に市の文化財指定を打診するが、同社は拒否。平成5年、所有者は建物の老朽化が進み維持管理困難なため、取り壊しを決定。足利市教育委員会は、移築保存を検討するが、用地や費用の面で断念。明治村に移築検討依頼。

所有者・明治機械は、平成6年2月に解体し、同年3月に明治村に搬送し、現在保管中である。

藤島太麻夫は血脇守之助と親交があり、東京歯科医学院講師として、講義録に「歯冠継続術」を寄稿している。